

2023 年 2 月 7 日  
 千代田化工建設株式会社  
 総務部 IR・広報・サステナビリティ推進セクション

## 2023 年 3 月期第 3 四半期決算説明会質疑応答要旨 (2023 年 2 月 2 日開催)

2023年2月2日に開催致しました、2023年3月期第2四半期決算説明会(電話会議)において、出席者の皆様から頂いた主なご質問と弊社の回答を以下にまとめております。

#	質問	回答
1	<b>【完成工事高】</b> 完成工事高の通期予想下方修正の理由は「一部案件で資材調達の最適化により工事進捗が期初の想定を下回るため」とされている。案件の現況のアップデートと、今後の見通しは。	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 一部案件で、納期の範囲内で輸送スケジュールを調整したことに伴い、コストベースの進捗率が期初想定比でビハインドするもの。</li> <li>• 当期の完成工事高は期初予想を下回るものの、来期に期ズレとなる。</li> <li>• 世界的なインフレが継続し、輸送費が高止まりしていることへの対応で、大型機器の発注は略完了しており、顧客・パートナーと協力して影響を最小化するもの。</li> </ul>
2	<b>【完成工事総利益率】</b> エネルギー分野、地球環境分野、各々について 2Q からの変化の背景についてお話しいただきたい。	<ul style="list-style-type: none"> <li>• エネルギー分野： 2Q に世界的なインフレの影響によるコスト増加について顧客との分担協議が纏まっていない一部案件について予備費を追加で計上したが、3Q で顧客交渉が進展したことに伴い損益が改善した。</li> <li>• 地球環境分野： 再生計画前に受注した国内案件の一部でサプライチェーンの混乱の影響を受けており、影響を最少化すべく、顧客と協議を続けている。ライフサイエンスなどの新規分野は堅調に収益を積み上げている。</li> <li>• 損益は四半期単位でなく、通期ベースでみて頂きたい。</li> </ul>
3	<b>【世界的なインフレの影響】</b> 大型の機器以外の、今後調達していく資材について、世界的なインフレの影	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 大型の機器資材は予算内で発注出来ており、輸送費の高止まりはピークアウトしているため、足許で大きなリスクは抱えていない。</li> </ul>

#	質問	回答
	響から、従来比高い価格になると考えるが、納期の範囲内で輸送スケジュールを調整していくうえで、このリスクは認識しなくてよいか。	<ul style="list-style-type: none"> <li>従来と同じように一括で発注・輸送するのではなく、分割発注・輸送することでリスクを分散化している。</li> <li>引き続き、資材価格・輸送費の動向を注意深くモニタリングし、顧客、パートナーと協力して、遂行案件への影響をミニマイズしていく。</li> </ul>
4	【経常利益・当期純利益】 経常利益・当期純利益の通期予想の上方修正の要因は。	<ul style="list-style-type: none"> <li>完成工事高が期初予想比を下回るものの、手持ち案件の着実な進捗、新規分野での利益の堅調な積み上げ、顧客とのリスク分担による採算の改善を踏まえ、営業利益は据え置いている。</li> <li>経常利益・当期純利益は、プロジェクト関連の営業外収益や投資収益なども勘案し、上方修正とした。</li> </ul>
5	【為替換算調整勘定】 バランスシートの為替換算調整勘定が 3Q で大きなマイナスを計上している理由は。	<ul style="list-style-type: none"> <li>主に在外子会社の円貨換算において、適用する為替レートの大幅な変動によるもの。</li> <li>その後の為替変動により、既に足許の実勢ベースでは回復している。</li> </ul>
6	【カタール NFS】 受注見通しはどうか。	<ul style="list-style-type: none"> <li>入札プロセスは若干遅れ気味。カタール NFS をフルスコープで受注出来る場合は目標を上回る見通しであるが、遂行中のカタール NFE ではコロナ禍やウクライナ危機など、予期せぬリスクを認識したことから、いろいろなリスクを慎重に見極めたうえで、最終的にどういった取り組みになるのかということを決断していく。</li> </ul>
7	【米国案件】 現在の米国案件はどのような状況か。米国での新規案件受注への対応は。	<ul style="list-style-type: none"> <li>米国は EPC の内、建設が大きなリスクに晒される。人件費が高く、労務リスク、訴訟リスクがあるため、建設を固定一括契約で請け負うことは大きなリスクになる。したがって、建設のリスクを慎重に見極めたうえで、上手くリスクコントロールして取り組むことが基本方針。現在遂行中の米国 LNG 案件は建設部分を JV パートナーが担っている。他に完工済みの米国エチレン案件でも同様のスキームで、当社は設計と調達を担った。一方、中東などはしっかりとした工事業者が存在しており、こうした業者をサブコンに起用して委託している。</li> </ul>

#	質問	回答
		<ul style="list-style-type: none"> <li>米国では複数の増設案件があるが、全ての案件が投資決定されるとは考え難い。LNG のトランジションエネルギーとしての重要性は広く認識されているが、2050 年ネットゼロ社会は近づいている。投資決定の確度の高い案件の中でも建設リスクをしっかりと抑えられる案件を精緻に検討していく方針。</li> </ul>

以上

この資料には、本資料発表時における将来に関する見通しおよび計画に基づく予測が含まれています。経済情勢の変動等に伴うリスクや不確定要因により、予測が実際の業績と異なる可能性があり、予想の達成、および将来の業績を保証するものではありません。従いまして、この業績見通しのみを依拠して投資判断を下すことはお控えくださいますようお願いいたします。